

1. 授業の概要

本授業の目的は、社会学理論の基礎を学習し、近代社会の成り立ちについて理解すること、次に、近代社会が内包する積極的側面と消極的側面について、現在の社会問題とかかわらせて考えることである。

本授業の到達目標は、現代社会の在り方が、近代化の過程で生ずるさまざまな社会変化によって形成されてきたことを理解すること、そして社会変化とは、具体的にどのような現象であったのか理解し、現代社会の諸問題と結び付けて議論することができることとして設定した。

3 回生以上を対象とする社会学Ⅱは、2 回生以上を対象とする社会学Ⅰを履修したのちに履修する。社会学Ⅱの合格者は、4 回生以上を対象とする社会学Ⅲの履修ができる。

授業のスケジュールは、以上の通りであった。

- ① イントロダクションー自明性への問いと「近代社会」ー
- ② 社会学の基礎理論① 社会学的方法と社会的事実
- ③ 社会学の基礎理論② 規範・ルール、正常性
- ④ 社会学の基礎理論③ 自己・アイデンティティ・役割
- ⑤ 現代社会の読み方① 社会変動と社会問題の発生
- ⑥ 現代社会の読み方② 近代社会の病理ーアノミーとエゴイズムー
- ⑦ 現代社会の読み方③ 近代社会の病理ー宗教と資本主義の精神ー
- ⑧ 現代社会の読み方④ 現代社会の病理ー社会病理と構造
- ⑨ 現代社会の読み方⑤ 現代社会の病理ー現代社会と社会的性格
- ⑩ 中間まとめと討論(近代社会の特質と現代社会の特質に関する社会学理論について)
- ⑪ 社会問題の社会学的研究① 見える社会問題・見えない社会問題
- ⑫ 社会問題の社会学的研究② 「構築」される社会問題
- ⑬ 社会問題の社会学的研究③ 社会的排除の現実

- ⑭ 社会問題の社会学的研究④ 偏在するリスク・遍在するリスク

- ⑮ 期末試験(基本的な語句の解説と小論文試験)

2. 授業評価の方法

2011 年度の本授業は、履修者数 22 名であり、内訳は社会科教育専修、人間社会デザインコースの学生である。授業開始時に出席を確認し、授業終了 10 分前をめどにコメントペーパーを配布して、受講生の理解度を把握することに努めた。これにより、遅刻者のチェックも厳密に行うことができた。実質の履修者は 20 名であり、毎回の出席率は約 90 パーセント～70 パーセントであった。

授業評価について、自由記述方法で学生に意見やコメントを書くように A5 の様式(記名式)を配布した。第 9 回目の「現代社会の読み方⑤ 現代社会の病理ー現代社会と社会的性格」の授業時に、この記名式授業評価を実施した。出席した学生による記述の一部分を以下列記する。

3. 授業アンケートの結果

- 内田樹の『下流社会ー学ばない子どもたち、働かない子どもたち』でわからないことを調べようとしないうちが増えている、というのをきいて、ドキッとしました。私自身、実際に文献読みながら、新聞読みながら、とりあえず分からない言葉は線を引いても、詳しく調べなかったりという経験はあります。また、わからないからといってすぐ人に聞くということもあります。これは学問に限らず、日常生活においてもいえます。知らないことを人に尋ねる勇気と分からないことを考えようとしないうちは違うと思います。また効率よくすぐに答えを見つけようと、方程式を覚えて、数値入れ換えるだけという公文式の学習で失敗している友達がいました。なぜそうなるのかを考えないと、応用がきかなくなります。
- 就職活動をしていると、どうしても自分の強み・弱みを書き出さないとしけないため、宮台氏の言うような「風景の一記号としてまったりと生き」ていた大学生活の中から、自分とはなにかを見つめなおす必要があります。なにか特別なことをしなきゃ・人に勝るよう

な努力をしなきゃ、自分の良さや悪さが出てこないのかと思ってたら、案外そうでもなくて、のらりくらりと生活していてもそれなりに分析する素材は転がっているな、と、最近思っています。やっぱり私たち若者は、日本社会が思っているよりも幸せだ、と毎日、ニコニコ動画見て生活できるような平和な社会が心地良いと思える、幸せな人間だなと思いました。

- 学びの下流化の話が印象に残った。私の知り合いが次のようなことを言っていた。「学校の勉強？ そんなものしても人生の役には立たないし、他に大切なことがあるよね。」確かにそういう面もあるが、、、そして一言、「やっぱり生きる力やね」？！生きる力ってそういうことか？反学校神話へ同意し出しているのか？
- 「そこそこ」を生きるようになったという脱力する時代の話の中で、「さくっ」という言葉がここ数十年で使われるようになったという話題が出てきましたが、私もまさにその言葉を人間関係を表す擬態語として使っていました。時代の傾向を確かに私も受け取りながら生活していることが具体的な例として浮かび上がってきてはっとしました。今回のプリントの2ページの1番上にある3つの箇条書きは、どれも自分に当てはまるような気がします。個性的でありたいと思っても、結局は社会を反映してみんな同じようになっていってしまうのは、どこか残念な気持ちになります。
- 『学校でよい成績をとることは人間の価値と関係ない』という考え方は、僕もそう思っているところで、テストの点が高いから素晴らしい人間だ、テストの点が悪ければダメな人間だとは言いきれないです。テストで測るのが最も手っ取り早いわけですけど、前述していることも含めると、教師を目指している身としては、教育は複雑な立場におかれていると思いますし、自分自身テストの点だけで人を測りたくないと思いました。だからどのような有効な手段があるのかというと、特にないんですけど。
- 分からない言葉を、そのままにして読む、使うという行為は、私はよくやってしまう。今日の講義で、私が「学んできた」ようで「学んでいなかった」ということを痛感してしま

った。わからないことをそのままにする習慣が体に染み付いてしまっていることを理解した。そんな自分が先生になろうとしていることが大変なことのように感じたし、これから、自分のその癖が治るのかも不安になった。意識的ではなく、無意識的な行為だということに大きな問題がある。

- 言葉、単語の意味を分かった気で遣っていることは大学生ながら多々あると思います。私もレジュメを作りながら文献から意識することなく丸々文章・単語を写してしまったりしてしまいます。就活をしながら、給料は安くてもいいからしんど過ぎない仕事がいいなと思いますが、実家暮らしで苦勞をしていないからだとつくづく感じます・・・。
- 以前と比べるとさまざまな制度が作られたことで、過労死などのニュースは減少しているように感じていた。しかし、そうでもなかったみたいだと考えさせられた。たぶん、私自身が今就活をしていてそう話には特に敏感になっていると思う。ただ、つらいお金がないというようなことばかり思っている、前には進めないし、ストレス発散方法を知っておく大切さを改めて感じる。
- 過去に起こった出来事を見てみると、出来事はその過去に要因があるということが多くのように思います。今では進学することだけに集中して、学びの意味がズレているように思いますが、これからどういった流れで維持していくのか、また変化していくのか見ていきたいと思います。何が幸せかは人生の価値観などによって個人でも違いますが社会の経済のレベルによって全体的な生活水準が決まり、それによって変わってしまうと思います。社会学って一般化しすぎると説得性がないし、かといって個別的になると思考の限界が来るので、難しい学問ですね。

4. 総括

学生の将来に直接かかわる現代社会の問題として、とくに労働問題に関連付けた解説を行ったが、コメントペーパーには各受講生で理解度の差が表れていた。次回の授業で、補足説明を行ったが、毎回の授業において、より丁寧に直近の官庁データや新聞記事等の資料を示しつつ、社会学の先行研究との関連を分かりやすく解説することを、次年度、より徹底したいと考えている。